

4. 男女平等意識について

(1) 男女の地位の平等感について

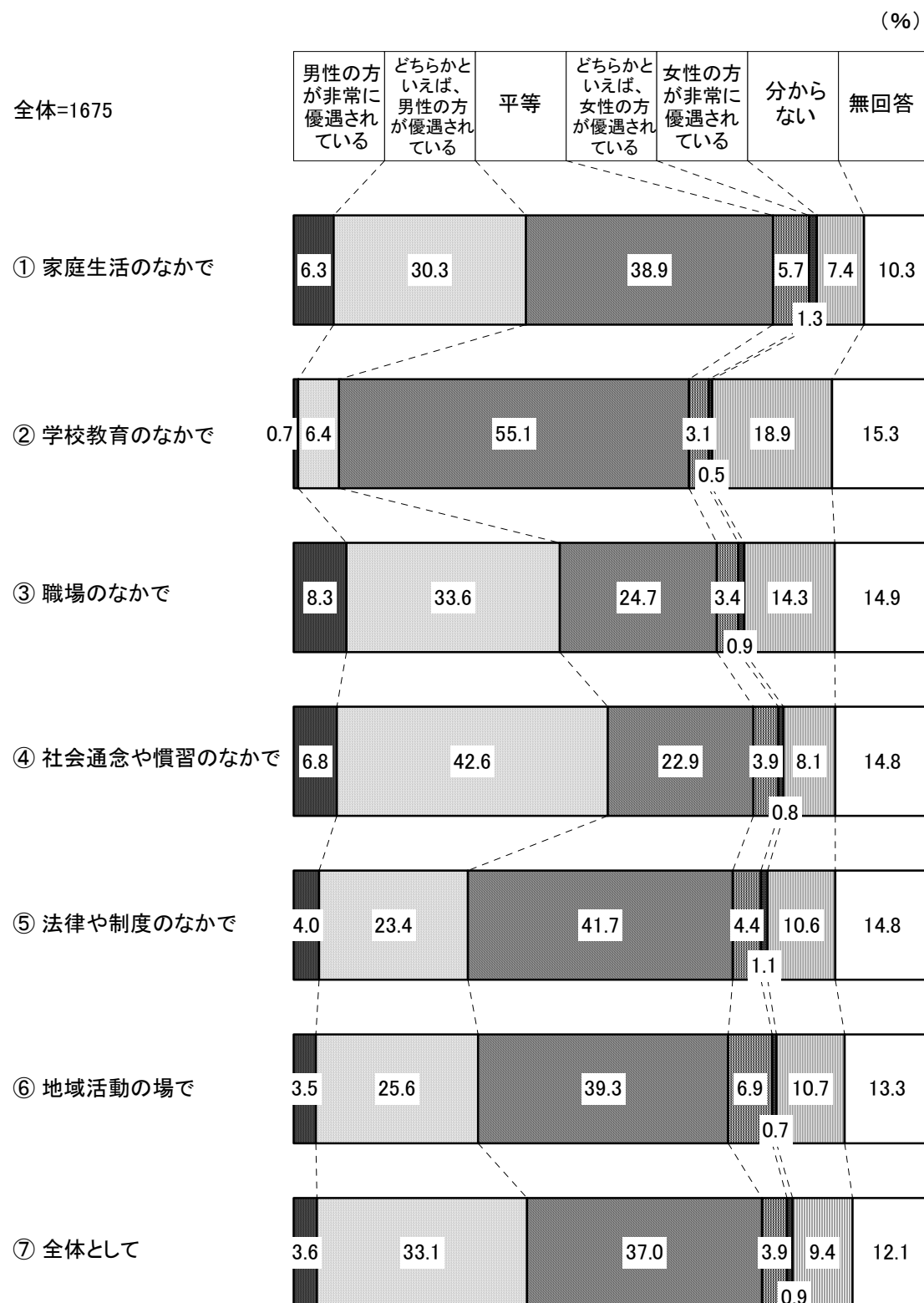
◆ 「社会通念や慣習のなかで」「職場のなかで」は『男性の方が優遇されている』が4～5割

男女の地位の平等感について、「社会通念や慣習のなかで」については『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」と回答した割合）が49.4%と約半数を占めている。「職場のなかで」についても『男性の方が優遇されている』とする人が41.9%となっている。

一方、『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」と回答した割合）はどの項目も1割に満たないが、「学校教育のなかで」は「平等」との回答が55.1%となっている。

また、「家庭生活のなかで」「全体として」では『男性の方が優遇されている』と「平等」との回答がそれぞれ30%台と意見が分かれている。

問 21(1) 男女の地位は平等になっていると思いますか。次の項目ごとに該当する番号をそれぞれ1つ選び○をつけてください。



「全体として」について性別にみると、男性では「平等」との回答が 45.8%と半数に近いが、女性では 29.0%にとどまり『男性の方が優遇されている』が 44.2%と半数近くとなっている。

年齢別にみると、30代と40代では『男性の方が優遇されている』が5割前後と多くなっているが、60歳以上では30.8%と少ない。

全体として

(%)

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	分からない	無回答
全体		1675	3.6	33.1	37.0	3.9	0.9	9.4	12.1
性別	男	807	2.1	30.0	45.8	4.7	1.2	5.8	10.3
	女	773	5.4	38.8	29.0	2.5	0.5	13.3	10.5
年齢	20～29歳	66	4.5	37.9	36.4	3.0	1.5	15.2	1.5
	30～39歳	148	4.7	46.6	33.8	4.7	0.7	8.1	1.4
	40～49歳	215	6.0	43.3	35.8	4.2	0.5	7.4	2.8
	50～59歳	285	5.3	36.5	42.1	3.5	0.7	6.0	6.0
	60歳以上	891	2.6	28.2	37.3	3.5	1.0	11.0	16.5

(2) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方について

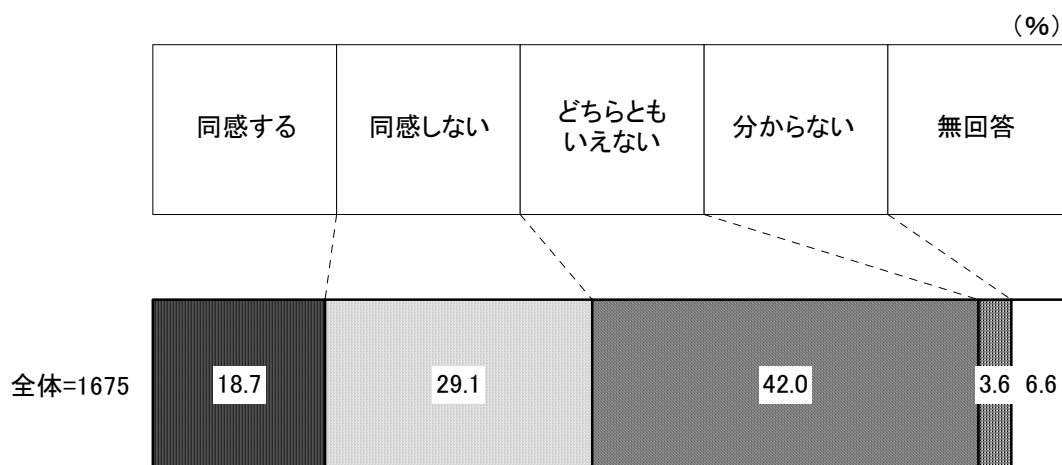
◆「同感する」18.7%、「同感しない」29.1%、「どちらともいえない」42.0%

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、「同感する」18.7%、「同感しない」29.1%、「どちらともいえない」42.0%となっている。

性別にみると、男性で「同感する」が24.8%なのに対し、女性では12.8%にとどまり、「同感しない」が33.5%となっている。

年齢別では、60歳以上で「同感する」が23.1%と最も多くなっている。一方、20代と30代では「同感しない」が5割前後となっている。

(2)「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

		n	同感する	同感しない	どちらともいえない	分からない	無回答
全体		1675	18.7	29.1	42.0	3.6	6.6
性別	男	807	24.8	26.5	41.6	2.6	4.5
	女	773	12.8	33.5	43.3	4.7	5.7
年齢	20～29歳	66	15.2	45.5	36.4	3.0	0.0
	30～39歳	148	10.8	53.4	31.8	2.7	1.4
	40～49歳	215	13.0	38.1	43.3	2.8	2.8
	50～59歳	285	15.1	34.7	45.6	2.8	1.8
	60歳以上	891	23.1	21.1	42.9	4.2	8.8

(3) 家庭での作業分担

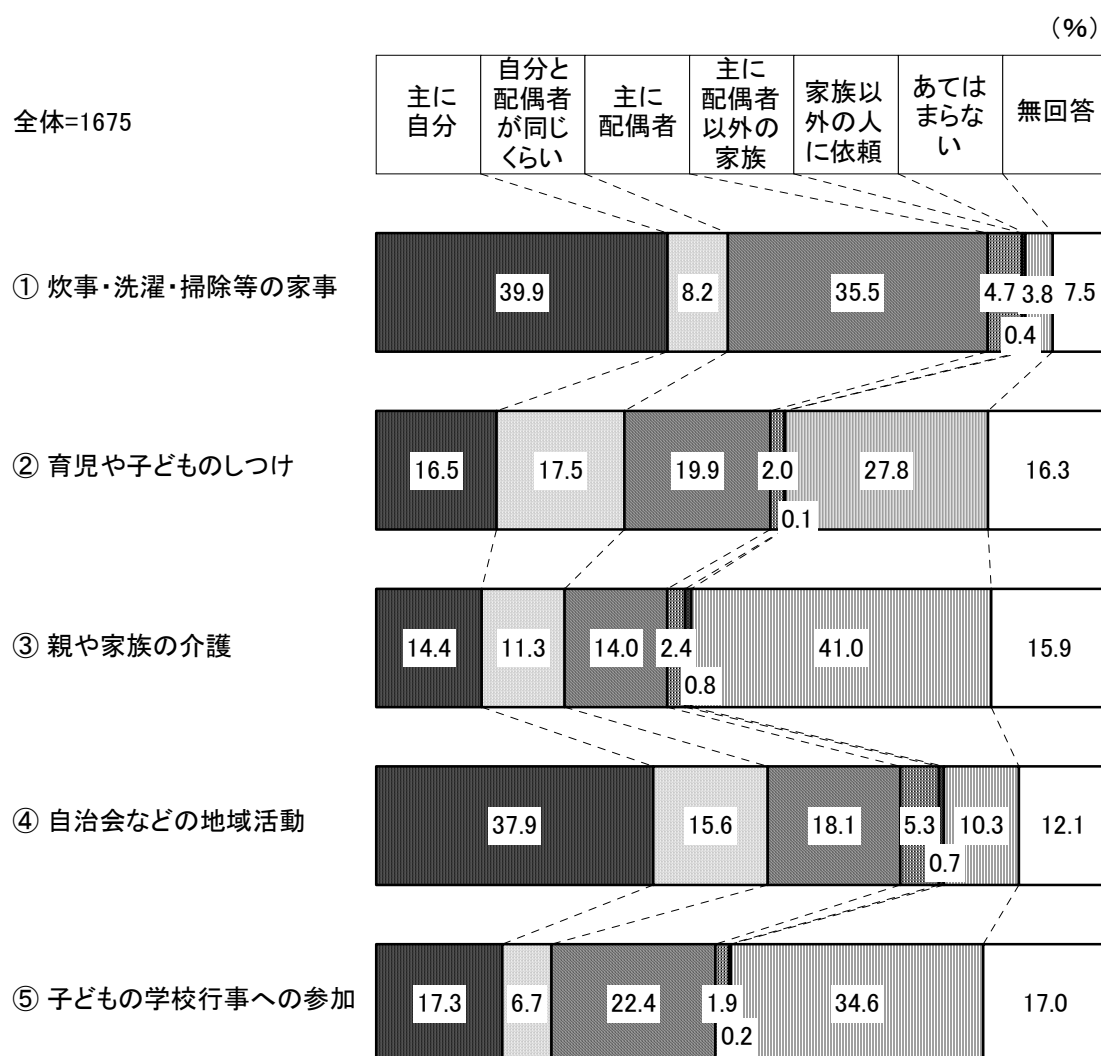
◆「自治会などの地域活動」は「主に自分」が37.9%

家庭での作業分担については、「自治会などの地域活動」は「主に自分」との回答が37.9%と多くなっている。

一方、「炊事・洗濯・掃除等の家事」については、「主に自分」と「主に配偶者」との回答が約4割弱ずつ、「子どもの学校行事への参加」についても「主に自分」と「主に配偶者」が約2割ずつとなっている。

また、「育児や子どものしつけ」と「親や家族の介護」については「主に自分」「自分と配偶者が同じくらい」「主に配偶者」との回答がほぼ同数ずつとなっている。

(3) あなたの家庭では次のことがらを主にどなたが行っていますか。項目ごとに該当する番号をそれぞれ1つ選び○をつけてください。



性別でみると、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者」との回答が多く、どの項目においても女性が担っている割合が高い。「自分と配偶者が同じくらい」との回答は、男性と女性でやや差がみられる。

① 炊事・洗濯・掃除等の家事

		n	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者	主に配偶者以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1675	39.9	8.2	35.5	4.7	0.4	3.8	7.5
性別	男	807	10.0	12.0	67.5	3.2	0.0	2.4	4.8
	女	773	73.2	3.9	3.5	6.9	0.6	5.3	6.6

② 育児や子どものしつけ

		n	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者	主に配偶者以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1675	16.5	17.5	19.9	2.0	0.1	27.8	16.3
性別	男	807	1.7	22.4	37.1	1.1	0.0	25.3	12.4
	女	773	32.9	12.3	2.6	2.8	0.0	32.5	16.9

③ 親や家族の介護

		n	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者	主に配偶者以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1675	14.4	11.3	14.0	2.4	0.8	41.0	15.9
性別	男	807	3.8	15.5	25.2	1.6	0.9	41.6	11.4
	女	773	26.3	7.0	2.2	3.5	0.8	43.3	16.9

④ 自治会などの地域活動

		n	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者	主に配偶者以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1675	37.9	15.6	18.1	5.3	0.7	10.3	12.1
性別	男	807	30.0	21.7	29.0	2.7	0.4	7.3	8.9
	女	773	46.3	10.3	7.8	8.3	1.0	14.0	12.3

⑤ 子どもの学校行事への参加

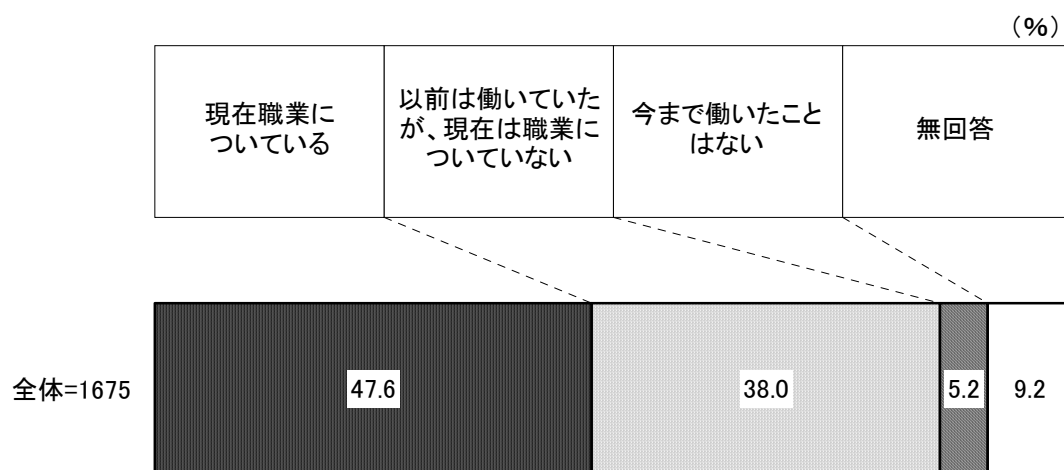
		n	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者	主に配偶者以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1675	17.3	6.7	22.4	1.9	0.2	34.6	17.0
性別	男	807	2.0	8.9	40.9	1.4	0.1	33.7	13.0
	女	773	34.2	4.4	3.6	2.5	0.1	37.8	17.5

(4) 就業状況

- ◆「現在職業についている」47.6%、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」38.0%、「今まで働いたことはない」5.2%

現在の就業状況については、「現在職業についている」47.6%、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」38.0%、「今まで働いたことはない」5.2%となっている。
性別では、男性の就業率が高くなっている。

- (4)あなたは、現在収入のある職業(パート・アルバイトを含む)についていますか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

		n	現在職業についている	以前は働いていたが、現在は職業についていない	今まで働いたことはない	無回答
全体		1675	47.6	38.0	5.2	9.2
性別	男	807	56.5	35.2	1.7	6.6
	女	773	41.4	41.7	8.5	8.4

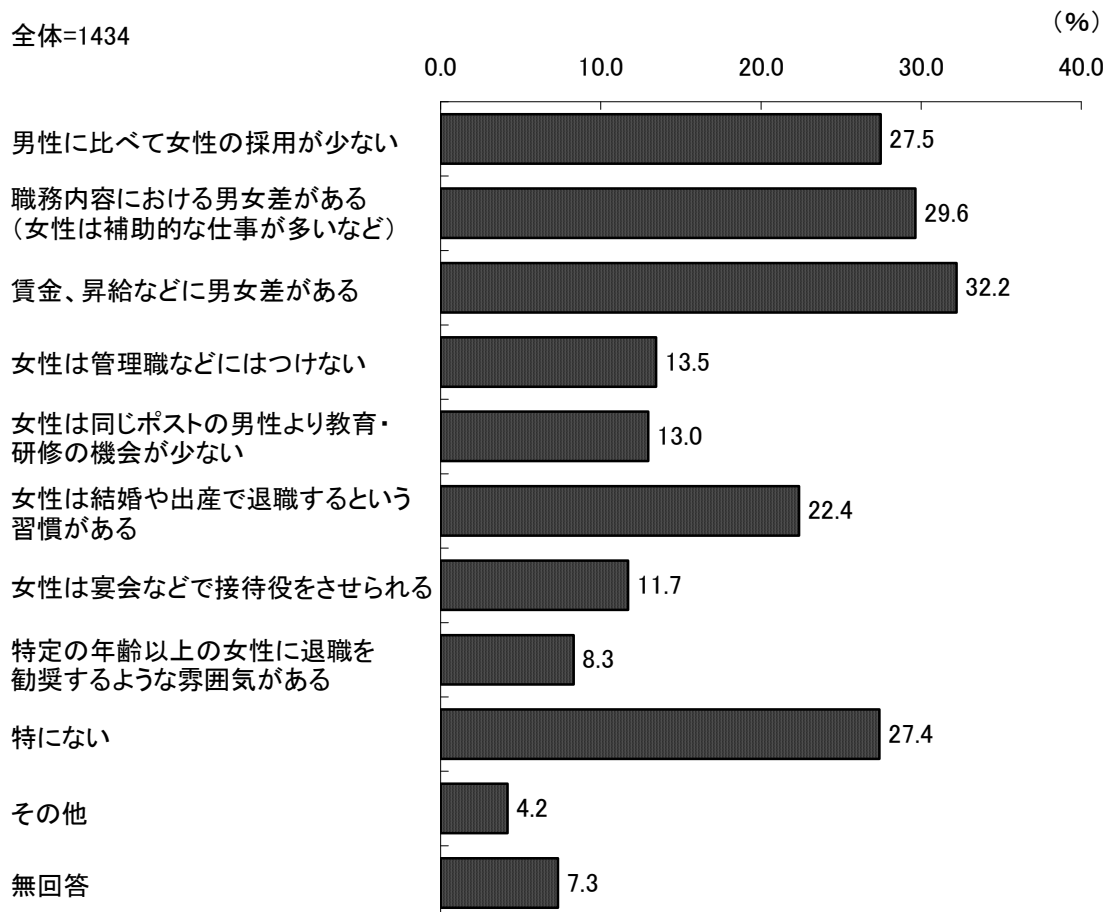
(5) 職場での男女間の差 (複数回答)

◆「賃金、昇給などに男女差がある」「職務内容における男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)」「男性に比べて女性の採用が少ない」が3割前後

職場での男女間の差については、「賃金、昇給などに男女差がある」(32.2%)、「職務内容における男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)」(29.6%)、「男性に比べて女性の採用が少ない」(27.5%)が3割前後で最も多く、ついで「女性は結婚や出産で退職するという習慣がある」が22.4%で続いている。「特にない」との回答も27.4%となっている。

(5) <(4)で「1. 現在職業についている」「2. 以前は働いていたが、現在は職業についていない」とお答えになった方にお尋ねします>

あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。または、過去にありましたか。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



性別では、男性では「男性に比べて女性の採用が少ない」が37.4%と女性に比べ多くなっている。一方、女性では「女性は宴会などで接待役をさせられる」が男性よりやや多くなっている。

年齢別では、20代で「女性は結婚や出産で退職するという習慣がある」が、40代で「職務内容における男女差がある（女性は補助的な仕事が多いなど）」がやや多くなっている。

職業別では、管理職、公務員、教員、製造業、小売業等従事者、運転手で「男性に比べて女性の採用が少ない」が4割前後、会社等事務従事者と製造業、小売業等従事者、運転手で「職務内容における男女差がある（女性は補助的な仕事が多いなど）」が4割弱となっている。

(%)

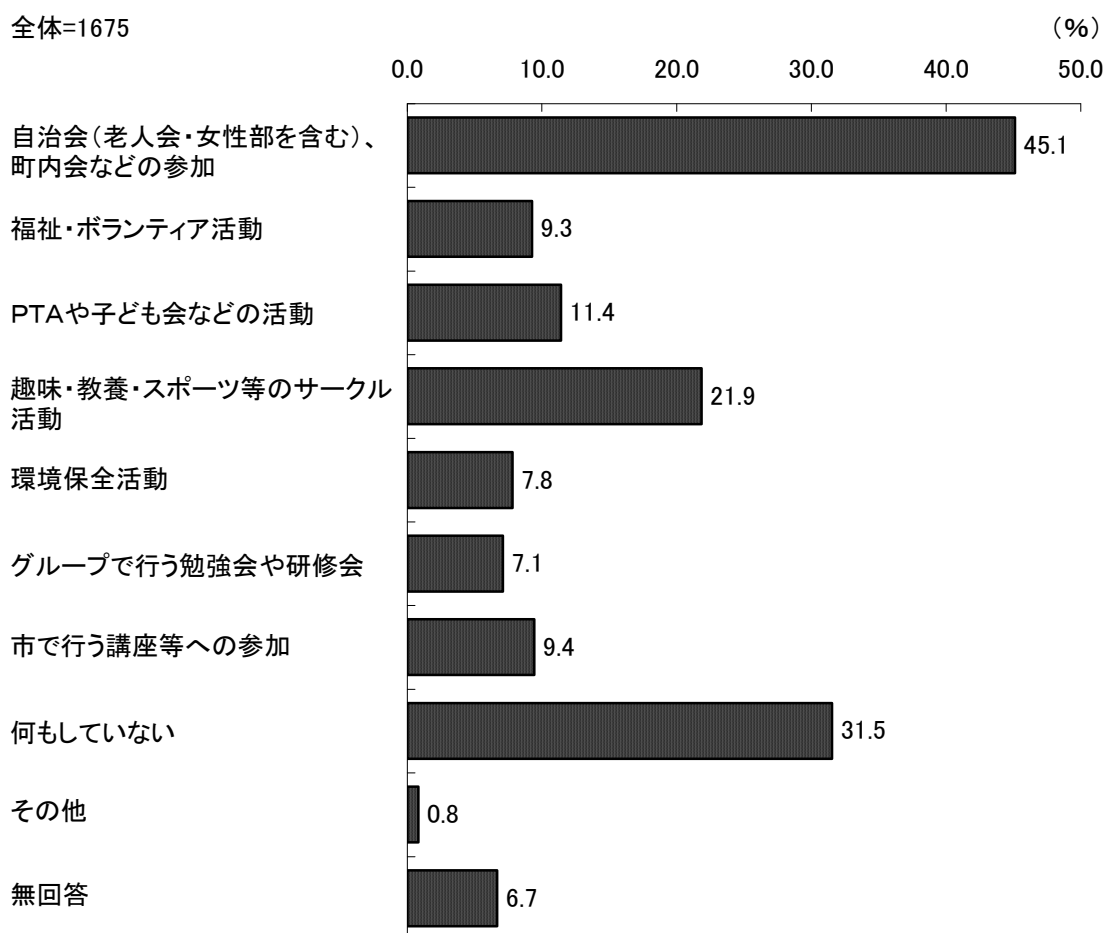
		n	男性に比べて女性の採用が少ない	職務内容における男女差がある (女性は補助的な仕事が多いなど)	賃金、昇給などに男女差がある	女性は管理職などにはつけない	女性は同じポストの男性より 教育・研修の機会が少ない	女性は結婚や出産で退職する という習慣がある	女性は宴会などで接待役を させられる	特定の年齢以上の女性に退職を 勧奨するような雰囲気がある	特 に な い
全体		1434	27.5	29.6	32.2	13.5	13.0	22.4	11.7	8.3	27.4
性別	男	740	37.4	31.8	29.3	12.2	14.3	21.6	8.5	6.4	25.0
	女	642	15.1	26.9	34.7	14.6	10.7	23.2	15.4	9.8	31.8
年齢	20～29歳	60	25.0	18.3	13.3	5.0	5.0	30.0	15.0	1.7	28.3
	30～39歳	145	31.0	26.2	26.9	13.8	7.6	24.8	18.6	4.1	31.7
	40～49歳	211	30.3	37.0	32.2	17.1	8.5	27.5	18.0	7.6	28.4
	50～59歳	264	27.3	25.8	33.0	15.9	14.0	24.6	7.2	7.6	28.8
	60歳以上	713	25.7	30.3	34.1	11.9	15.6	18.7	9.8	9.8	26.8
職業	専門職	67	20.9	16.4	9.0	4.5	3.0	26.9	10.4	7.5	38.8
	管理職	83	39.8	30.1	28.9	13.3	15.7	21.7	7.2	4.8	27.7
	会社等事務従事者	108	30.6	38.0	39.8	19.4	12.0	24.1	15.7	4.6	20.4
	公務員、教員	51	37.3	19.6	7.8	3.9	2.0	13.7	7.8	3.9	45.1
	製造業、小売業等従事者、運転手	144	45.1	36.1	33.3	16.7	14.6	24.3	9.0	7.6	18.1
	農林漁業、畜産業	31	19.4	12.9	9.7	6.5	6.5	3.2	3.2	0.0	19.4
	サービス業	81	19.8	23.5	25.9	12.3	17.3	19.8	13.6	12.3	40.7
	自営業	88	22.7	14.8	25.0	10.2	8.0	17.0	8.0	5.7	33.0
	学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦	223	13.0	25.1	37.7	15.7	7.2	26.0	16.6	9.4	33.2
	無職	417	27.6	35.7	38.8	12.9	18.2	23.7	11.8	10.3	22.5
その他	93	28.0	32.3	30.1	17.2	15.1	18.3	10.8	9.7	34.4	

(6) 社会活動への参加状況（複数回答）

◆「自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加」45.1%、「何もしていない」31.5%

この1年間の社会活動への参加状況は、「自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加」が45.1%と最も多く、ついで「趣味・教養・スポーツ等のサークル活動」が21.9%となっている。一方、「何もしていない」も31.5%と約3人に1人の割合となっている。

問 22(1)あなたは、この1年間に社会活動に参加したことがありますか。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



性別にみると、男性では「環境保全活動」、女性では「PTAや子ども会などの活動」がやや多くなっている。

年齢別にみると、40代以上で「自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加」が半数近くとなっている。また、「PTAや子ども会などの活動」は30代で31.1%、40代で45.6%と多くなっている。一方、20代では「何もしていない」が63.6%を占めている。

(%)

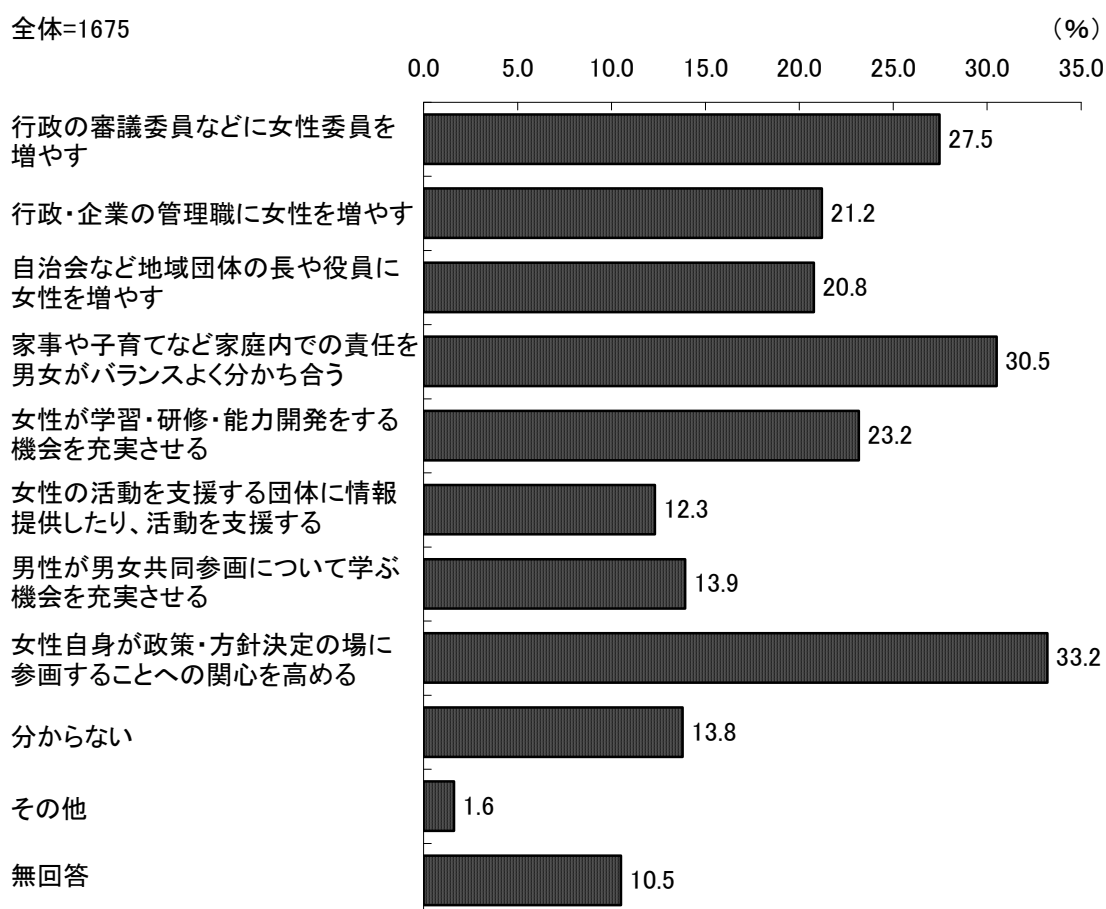
		n	自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加	福祉・ボランティア活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・教養・スポーツ等のサークル活動	環境保全活動	グループで行う勉強会や研修会	市で行う講座等への参加	何もしていない
全体		1675	45.1	9.3	11.4	21.9	7.8	7.1	9.4	31.5
性別	男	807	47.1	10.8	8.8	23.9	11.0	7.4	8.2	32.0
	女	773	44.2	8.0	15.1	21.3	4.4	7.2	11.3	32.1
年齢	20～29歳	66	19.7	3.0	3.0	7.6	1.5	3.0	4.5	63.6
	30～39歳	148	35.1	3.4	31.1	17.6	2.0	2.7	4.1	39.9
	40～49歳	215	47.9	6.0	45.6	23.3	7.0	7.0	7.4	21.4
	50～59歳	285	47.4	9.1	8.4	20.7	12.3	6.3	7.4	35.4
	60歳以上	891	48.1	11.9	2.2	24.4	8.1	8.6	12.1	29.2

(7) 女性が政策立案や方針決定をする場に進出するために必要なこと（複数回答）

◆「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」「行政の審議委員などに女性委員を増やす」が3割前後

女性が政策立案や方針決定をする場に進出するために必要なことは、「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」（33.2%）、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」（30.5%）、「行政の審議委員などに女性委員を増やす」（27.5%）が3割前後で最も多く、ついで「女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる」（23.2%）、「行政・企業の管理職に女性を増やす」（21.2%）、「自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす」（20.8%）が2割強で続き、意見は多岐にわたっている。

(2) あなたは、女性が政策立案や方針決定をする場に進出するためには何が必要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別にみると、男性は「行政・企業の管理職に女性を増やす」や「自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす」がやや多くなっているが、女性は「女性の活動を支援する団体に情報提供したり、活動を支援する」がやや多くなっている。

年齢別にみると、年齢が若いほど「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」が多くなっており、20代では51.5%となっている。また、30代では「行政・企業の管理職に女性を増やす」、50代では「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」が多くなっている。

(%)

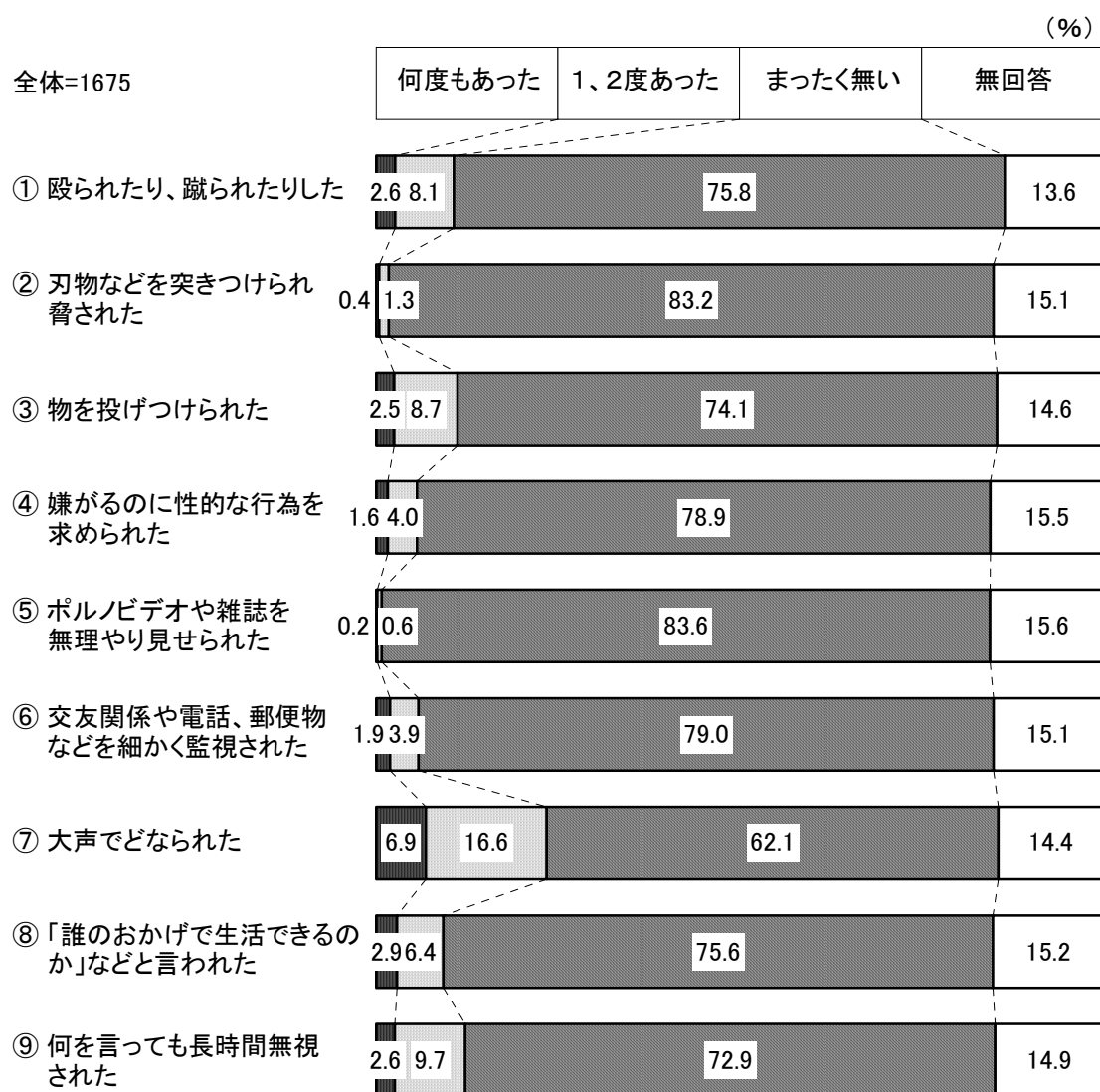
		n	行政の審議委員などに女性委員を増やす	行政・企業の管理職に女性を増やす	自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす	家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う	女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる	女性の活動を支援する団体に情報提供したり、活動を支援する	男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる	女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める	分からない
全体		1675	27.5	21.2	20.8	30.5	23.2	12.3	13.9	33.2	13.8
性別	男	807	31.1	25.3	25.8	29.1	24.8	9.8	14.4	35.9	11.5
	女	773	25.0	18.0	16.3	32.5	22.3	15.5	13.7	31.6	17.1
年齢	20～29 歳	66	27.3	21.2	12.1	51.5	27.3	16.7	15.2	21.2	13.6
	30～39 歳	148	29.1	32.4	8.8	41.9	23.6	16.2	8.8	31.1	17.6
	40～49 歳	215	31.2	22.3	18.6	39.5	20.0	10.7	14.0	34.0	12.6
	50～59 歳	285	29.5	27.0	26.7	28.1	24.9	16.1	17.5	41.8	9.5
	60 歳以上	891	26.5	17.8	22.7	26.2	23.6	10.8	13.7	32.3	14.9

(8) DV (ドメスティックバイオレンス) の有無について

◆「大声でどなられた」が『あった』は23.5%と約4人に1人の割合

配偶者やパートナーからのDV (ドメスティックバイオレンス) については、『あった』(「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した割合) が最も多いのは、「大声でどなられた」で 23.5%と約4人に1人の割合となっている。「何を言っても長時間無視された」「物を投げつけられた」「殴られたり、蹴られたりした」についても『あった』とする人が1割強みられる。

問 23(1) あなたは、これまでに、あなたの配偶者やパートナーから次のような行為をされたことがありますか。項目ごとに該当する番号をそれぞれ1つ選び○をつけてください。



性別にみると、女性の3割が「大声でどなられた」と回答している。

年齢別にみると、30代で「物を投げつけられた」が21.6%、30代と40代で「大声でどなられた」が30%台と他の年代に比べて多くなっている。

『あった』の割合

(%)

		n	殴られたり、蹴られたりした	刃物などを突きつけられ脅された	物を投げつけられた	嫌がるのに性的な行為を求められた	ポルノビデオや雑誌を無理やり見せられた	交友関係や電話、郵便物などを細かく監視された	大声でどなられた	「誰のおかげで生活できるのか」などと言われた	何を言っても長時間無視された
全体		1675	10.7	1.7	11.2	5.6	0.8	5.8	23.5	9.3	12.3
性別	男	807	5.5	1.2	8.5	1.6	0.2	4.6	18.8	4.4	13.3
	女	773	16.4	2.2	14.5	9.8	1.4	7.1	29.4	14.2	12.1
年齢	20～29歳	66	13.6	3.0	10.6	12.2	1.5	10.6	21.2	10.6	10.6
	30～39歳	148	15.6	3.4	21.6	10.1	0.7	7.4	31.8	12.2	11.5
	40～49歳	215	13.0	2.3	15.3	7.9	0.5	9.8	35.9	13.0	17.7
	50～59歳	285	11.9	2.1	12.0	6.0	2.5	8.1	27.8	9.5	17.9
	60歳以上	891	8.8	1.0	8.4	3.8	0.3	3.4	18.7	7.8	9.8

(9) DV（ドメスティックバイオレンス）についての相談の有無

◆「相談した」は19.3%

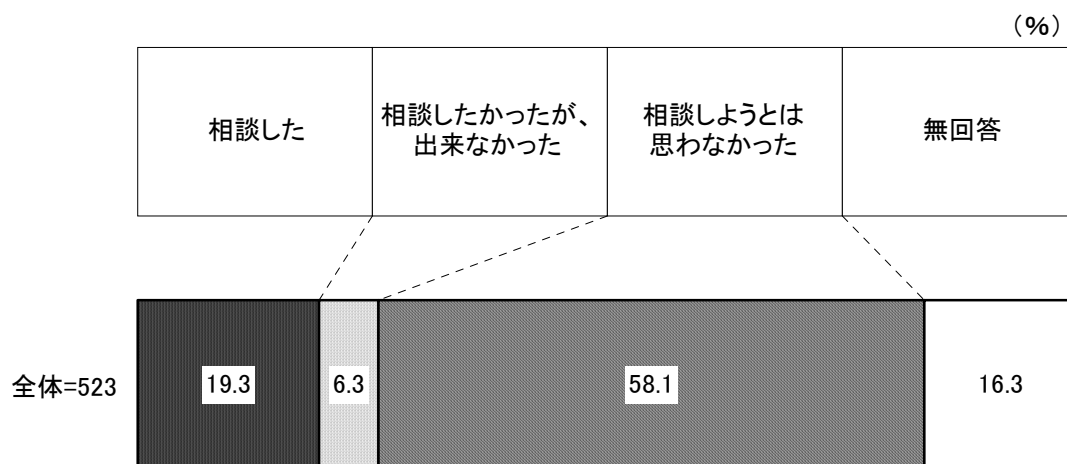
DV(ドメスティックバイオレンス)について、「相談しようとは思わなかった」が58.1%と半数以上を占め、「相談した」は19.3%となっている。

性別では、女性は27.1%が「相談した」としている。

年齢別では、年齢が若いほど「相談した」との回答が多くなっている。

(2) <(1)で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」とお答えになった方にお尋ねします>

あなたはこれまでにその相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

		n	相談した	相談したかったが、出来なかった	相談しようとは思わなかった	無回答
全体		523	19.3	6.3	58.1	16.3
性別	男	209	7.7	7.2	69.9	15.3
	女	295	27.1	5.4	50.2	17.3
年齢	20～29 歳	20	35.0	0.0	65.0	0.0
	30～39 歳	60	26.7	10.0	53.3	10.0
	40～49 歳	89	25.8	9.0	56.2	9.0
	50～59 歳	103	21.4	5.8	57.3	15.5
	60 歳以上	235	12.3	5.5	60.0	22.1

(10) DV（ドメスティックバイオレンス）についての相談相手（複数回答）

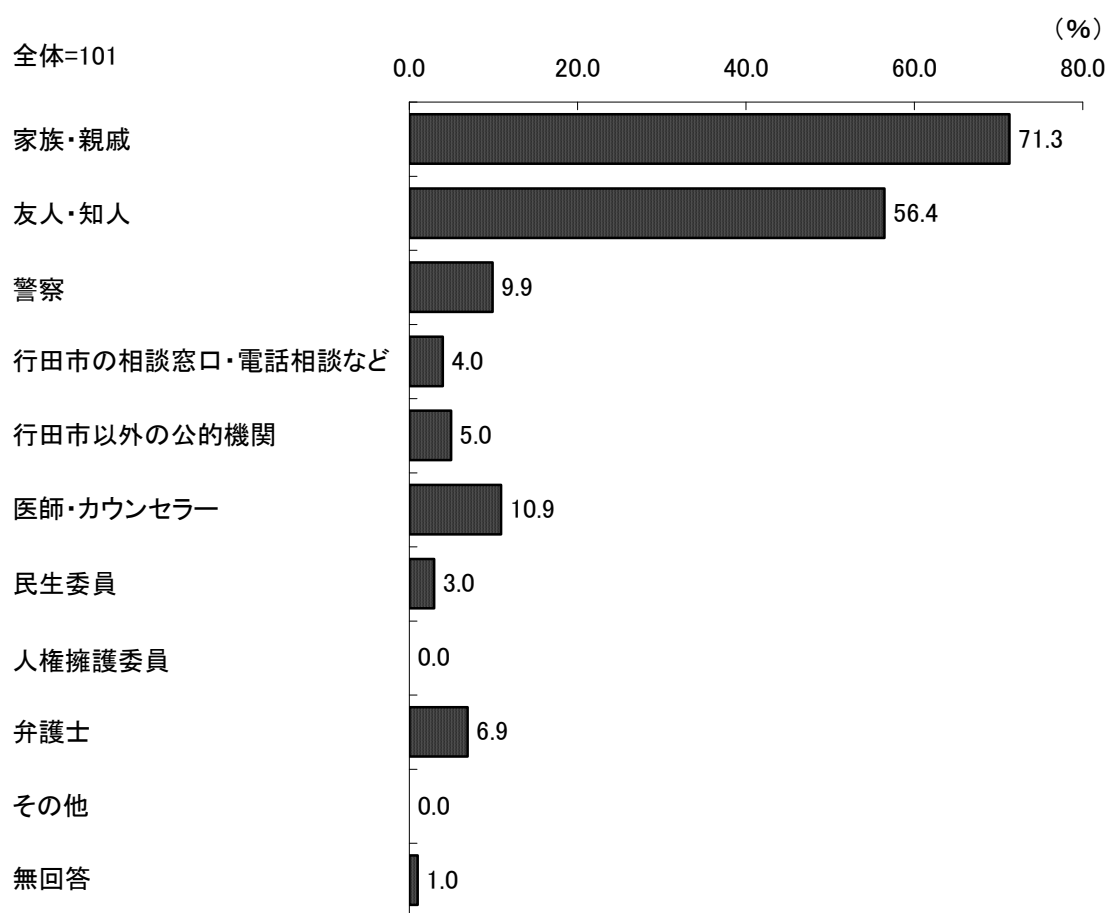
◆「家族・親戚」71.3%、「友人・知人」56.4%

DV（ドメスティックバイオレンス）についての相談相手は、「家族・親戚」が71.3%と多数を占め、ついで「友人・知人」が56.4%となっている。

性別にみると、男性では「医師・カウンセラー」、女性では「警察」もやや多くなっている。

(3) <(2)で「1. 相談した」とお答えになった方にお尋ねします>

あなたが相談した人や場所を教えてください。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



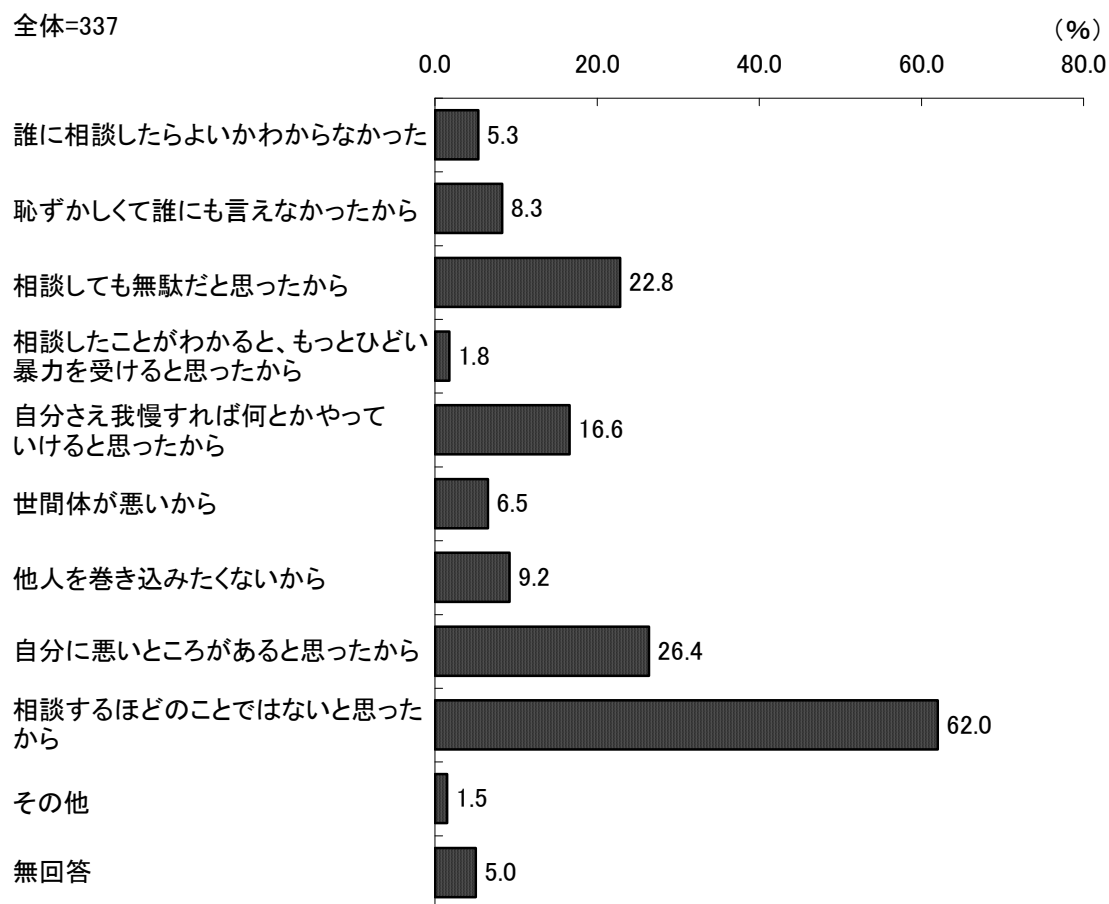
		n	家族・親戚	友人・知人	警察	電話相談など 行田市の相談窓口・ 機関	行田市以外の公的 機関	医師・カウンセラー	民生委員	人権擁護委員	弁護士	その他	無回答
全体		101	71.3	56.4	9.9	4.0	5.0	10.9	3.0	0.0	6.9	0.0	1.0
性別	男	16	87.5	43.8	6.3	0.0	0.0	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0
	女	80	71.3	60.0	11.3	5.0	5.0	8.8	1.3	0.0	7.5	0.0	1.3

(11) DV (ドメスティックバイオレンス) について相談できなかった理由 (複数回答)

◆「相談するほどのことではないと思ったから」が62.0%

DV (ドメスティックバイオレンス) について相談できなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が62.0%と群を抜いて多く、ついで「自分に悪いところがあると思ったから」(26.4%)、「相談しても無駄だと思ったから」(22.8%)、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」(16.6%)となっている。

(4) <(2)で「2. 相談したかったが、出来なかった」「3. 相談しようと思わなかった」とお答えになった方にお尋ねします>
あなたが誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。次の中から該当するものすべてを選び○をつけてください。



性別にみると、男性では「自分に悪いところがあると思ったから」、女性では「相談しても無駄だと思ったから」との回答が3割前後と多くなっている。また、女性では「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」との回答も2割強みられる。

		n	誰に相談したらよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	ひどい暴力を受けると思ったから	相談したことがわかると、もっといけると思ったから	自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくないから	自分に悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
全体		337	5.3	8.3	22.8	1.8	16.6	6.5	9.2	26.4	62.0	1.5	5.0	
性別	男	161	4.3	8.1	18.0	1.9	11.2	7.5	5.6	32.9	68.3	0.0	6.2	
	女	164	6.7	7.3	28.7	1.2	21.3	4.9	12.8	19.5	57.3	3.0	2.4	

(12) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知状況

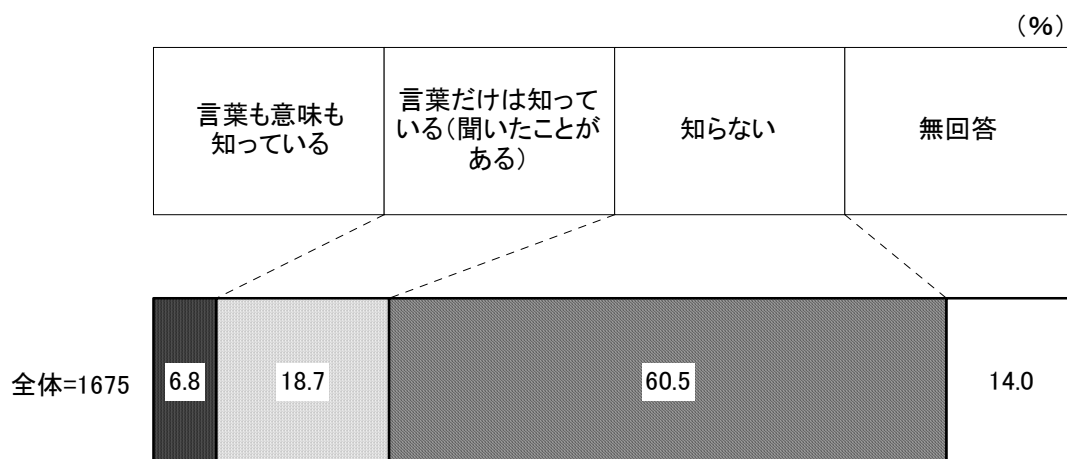
◆認知率は25.5%

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を「知らない」が60.5%を占め、「言葉も意味も知っている」は6.8%にとどまり、「言葉だけは知っている（聞いたことがある）」（18.7%）を合わせると25.5%の認知率となっている。

性別では、男性の認知率がやや高くなっている。

年齢別では、30代の認知率が低くなっている。

問24 平成19年12月に政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により「ワーク・ライフ・バランス憲章」が制定されましたが、あなたは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をご存知ですか。次の中から1つ選び○をつけてください。



(%)

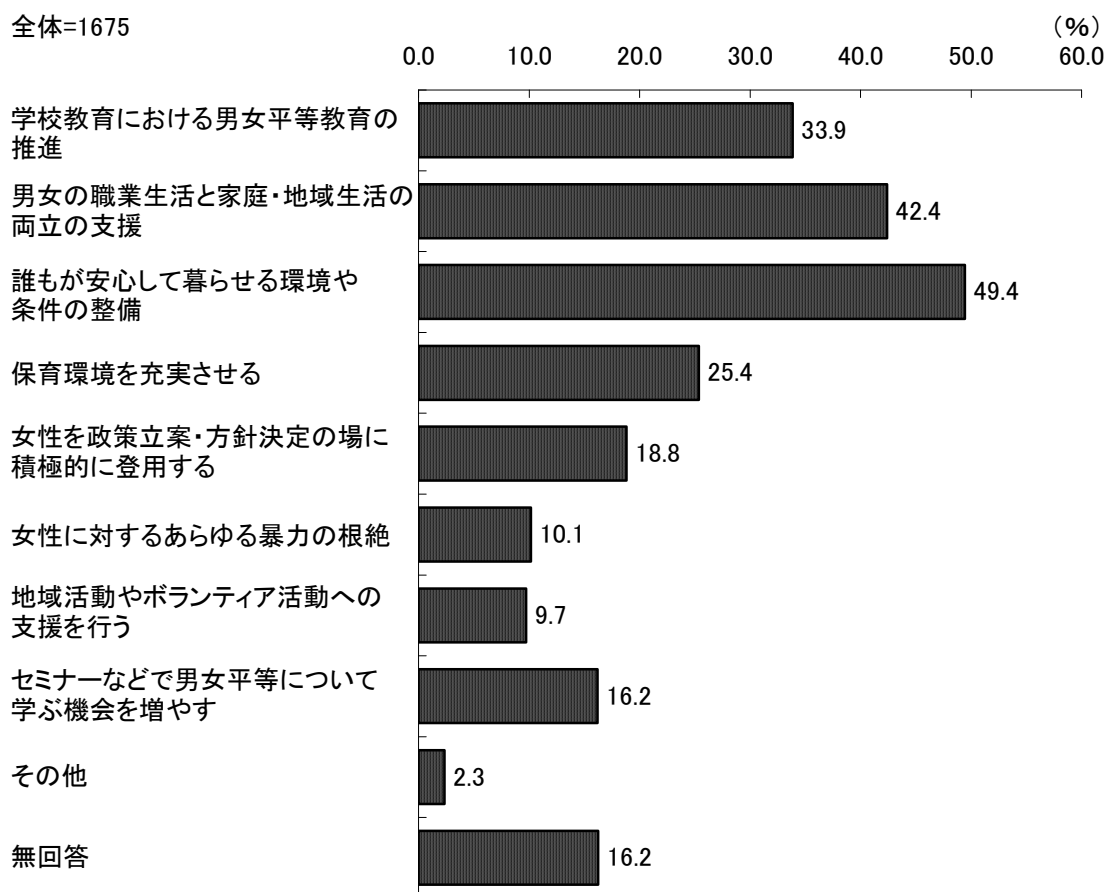
		n	言葉も意味も知っている	言葉だけは知っている(聞いたことがある)	知らない	無回答
全体		1675	6.8	18.7	60.5	14.0
性別	男	807	8.7	19.7	57.1	14.5
	女	773	5.4	17.2	67.5	9.8
年齢	20～29歳	66	1.5	19.7	75.8	3.0
	30～39歳	148	4.1	12.2	83.1	0.7
	40～49歳	215	11.2	16.3	64.7	7.9
	50～59歳	285	11.9	15.4	61.1	11.6
	60歳以上	891	5.3	21.1	56.6	17.1

(13) 男女共同参画社会の実現のために重要なこと（複数回答）

◆「誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備」「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」が40%台

男女共同参画社会の実現のために重要なことは、「誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備」(49.4%)と「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」(42.4%)が40%台と最も多く、ついで「学校教育における男女平等教育の推進」(33.9%)、「保育環境を充実させる」(25.4%)が続いている。

問 25 男女共同参画社会の実現のためには何が重要だとお考えですか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別にみても大きな差はみられない。

年齢別にみると、20代で「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」が68.2%、「誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備」が59.1%、「保育環境を充実させる」が42.4%と多くなっている。また、30～50代でも「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」が50%台となっている。

(%)

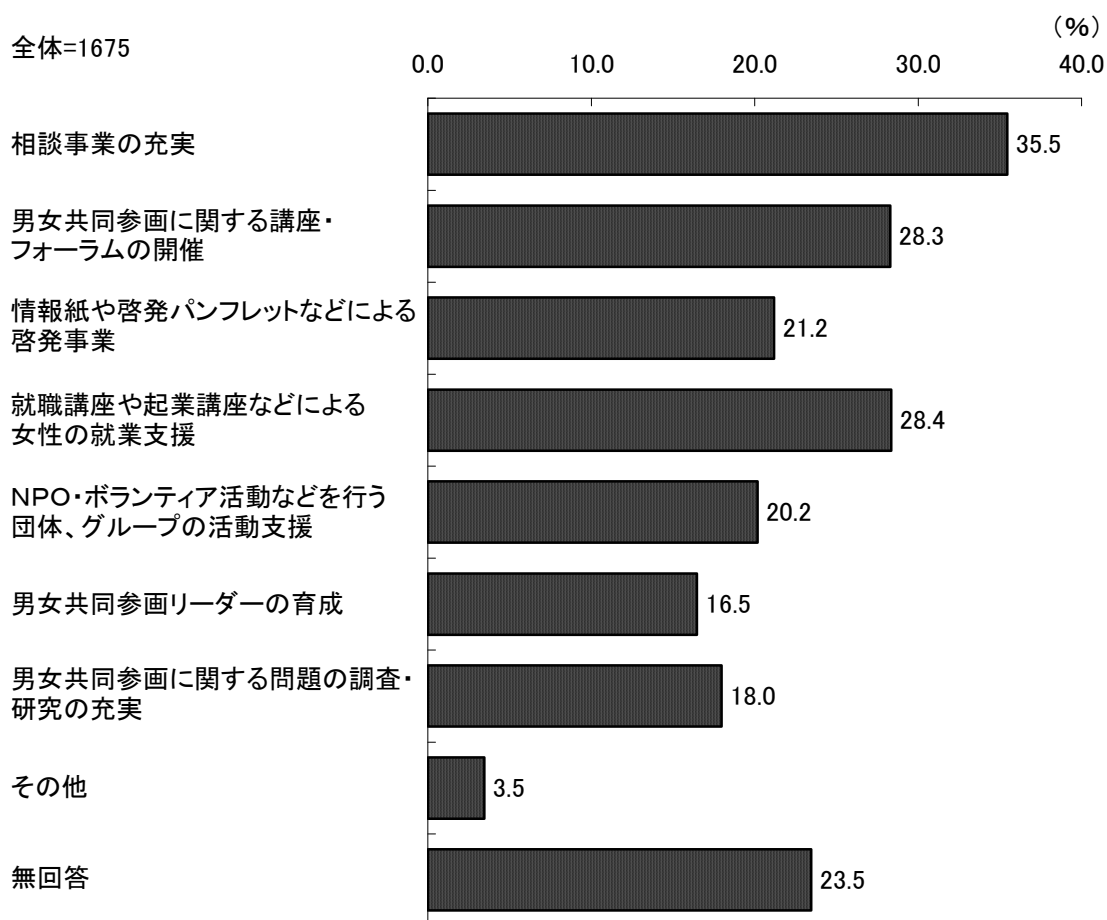
		n	学校教育における男女平等教育の推進	男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援	誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備	保育環境を充実させる	女性を政策立案・方針決定の場に積極的に登用する	女性に対するあらゆる暴力の根絶	地域活動やボランティア活動への支援を行う	セミナーなどで男女平等について学ぶ機会を増やす
全体		1675	33.9	42.4	49.4	25.4	18.8	10.1	9.7	16.2
性別	男	807	35.6	42.6	49.7	27.5	20.7	9.7	9.9	16.0
	女	773	33.4	45.0	50.6	24.7	18.4	10.9	9.6	16.4
年齢	20～29歳	66	22.7	68.2	59.1	42.4	13.6	16.7	4.5	13.6
	30～39歳	148	33.8	57.4	47.3	37.2	18.9	14.9	7.4	6.1
	40～49歳	215	35.3	57.7	44.7	27.0	17.2	11.2	5.6	13.0
	50～59歳	285	31.9	52.3	54.4	29.1	18.2	10.9	9.5	15.1
	60歳以上	891	35.4	33.1	49.8	21.4	20.5	8.9	11.3	19.2

(14) 「VIVAぎょうだ」に期待すること（複数回答）

◆「相談事業の充実」「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」「情報紙や啓発パンフレットなどによる啓発事業」「NPO・ボランティア活動などを行う団体、グループの活動支援」など要望は多岐にわたる

男女共同参画推進センター「VIVAぎょうだ」に期待することは、「相談事業の充実」(35.5%)、「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」(28.4%)、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(28.3%)、「情報紙や啓発パンフレットなどによる啓発事業」(21.2%)、「NPO・ボランティア活動などを行う団体、グループの活動支援」(20.2%)など要望は多岐にわたっている。

問 26 市では、男女共同参画推進センター「VIVAぎょうだ」を設置・運営していますが、今後どのような事業を期待しますか。次の中から3つまで選び○をつけてください。



性別にみても特に大きな差はみられない。

年齢別にみると、20代と30代で「相談事業の充実」と「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」が約4～5割と多くなっている。

(%)

		n	相談事業の充実	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	情報紙や啓発パンフレットなどによる啓発事業	就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	NPO・ボランティア活動などを行う団体、グループの活動支援	男女共同参画リーダーの育成	男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実
全体		1675	35.5	28.3	21.2	28.4	20.2	16.5	18.0
性別	男	807	33.7	31.0	23.8	26.8	20.9	19.2	21.2
	女	773	38.9	27.2	18.9	31.4	19.8	14.5	15.5
年齢	20～29歳	66	47.0	25.8	25.8	39.4	24.2	13.6	18.2
	30～39歳	148	44.6	21.6	20.3	45.3	19.6	14.2	14.9
	40～49歳	215	37.7	25.6	20.0	36.3	20.5	17.2	15.8
	50～59歳	285	34.4	31.2	21.1	33.3	20.4	19.3	17.9
	60歳以上	891	34.0	30.3	21.4	22.1	20.1	16.5	19.3